

【高等学校】

教科等	科目	内容	環境関連項目(配慮事項や内容の取り扱い等)
地理歴史	世界史A	(3) 現代の世界と日本	生徒の主体的な追究を通し、地球的課題としての環境問題などについて考察し、国際協調の必要性を認識する。
	世界史B	(5) 地球世界の形成	環境問題などを歴史的観点から追究し、自然との共存・共生を図る方途について考察する。
	日本史A	(4) 第二次世界大戦後の世界と日本	地球的規模での環境問題、その他我が国が直面する課題に対する理解と日本の果たし得る役割について認識を深める。
	日本史B	(7) 同上	同上
	地理A	(2) 地域性を踏まえてとらえる現代世界の課題	環境、資源・エネルギー、人口、食料及び居住・都市問題を地球的及び地域的視点から追究し、それらの課題の解決に当たって国際協力の必要性を認識する。
	地理B	(3) 現代世界の諸課題の地理的考察	環境、エネルギー問題を世界的視野から地域性を踏まえて追究し、その解決には国際協力が必要であることを認識する。
公民	現代社会	(1) 現代に生きる私たちの課題	地球環境問題、資源・エネルギー問題など現代社会の諸問題について課題を設け、主体的に追究する。
		(2) 現代の社会と人間としての在り方生き方	公害の防止と環境保全について理解するとともに、個人と企業の経済活動における社会的責任について考える。
	倫理	(2) 現代と倫理	生命、又は環境における倫理的課題を、自己の課題とつなげて追究し、人間としての生き方について自覚する。
	政治経済	(3) 現代社会の諸問題	地球環境問題の現れ方、現状の理解とともに、環境保全と経済発展とを対照させ「持続可能な開発」という視点から考察する。
理科	理科基礎	(3) 科学の課題とこれからの人間生活	エネルギーの問題が現在及び将来において直面する大きな課題であり、エネルギー資源やその利用可能な技術の開発と環境保全について科学技術の果たす役割が大きいことを考察する。 生命と環境にかかわる課題に対して、適切な判断や意志決定に基づく行動をするには、理性的、合理的、総合的な判断の基になる科学技術の役割が大きいことを考察する。
	理科総合A	(2) 資源・エネルギーと人間生活	多様なエネルギー資源が発電や熱源に利用されていること及び蓄積型のエネルギー資源の成因、分布、埋蔵量の有限性並びにこれらがエネルギーとして利用できる過程についての概略を扱い、環境への配慮が必要であるこ

理科	理科総合 B	(4)	科学技術の進歩と人間生活	とを学習する。 物質や資源の利用、エネルギーの変換や利用など科学技術に関する身近な課題を取り上げ、科学技術と人間生活とのかかわりなどを学習する。
		(4)	人間の活動と地球環境の変化	水や大気汚染、植物の遷移現象、地球温暖化など生物とそれを取り巻く環境に関する身近な課題を取り上げ、人間と環境のかかわり、地球環境を保全することの重要性などを探究する。
	物理	全体を通して		科学技術の進歩は日常生活に利用できる物質、エネルギー、情報などの拡大をもたらし、人類の福祉に大きく寄与している。一方、エネルギーの大量消費による自然環境の破壊など、自然との調和を考慮しなければならない問題も多い。したがって科学的な自然観の育成とともに、科学技術の成果の長所短所を判断し、自然科学の進歩に対応できる基礎的な能力を身に付ける。
		(4)	原子と原子核	放射能及び原子力の利用とその安全性の問題について学習する。
	化学	全体を通して		同じ物質が示す有益と有害の二面性、有限な資源と地球規模で循環する物質をどう利用するか。また、廃棄物と環境の問題、現代社会における化学が果たすべき役割などについて学習する。
		(1)	物質の構成	化学の成果が人間生活を豊かにしたことを具体的例を通して扱う。その際に、有害な物質については適切な管理が必要であることを学習する。
	生物	(2)	環境と生物の反応	環境と生物の反応の間に見られる仕組みを観察、実験などを通して探究し、生物は、個体として外部環境の変化に対応して、安定した内部環境を維持したり、成長や器官の分化を調節したりすることを理解する。
	生物	(3)	生物の集団	個体群の構造と維持、生物群集と生態系について観察、実験などを通して探究し、生物を集団のレベルでとらえて生物と環境とのかかわりについて理解するとともに、生態系における動的平衡とその重要性及び環境の保全の意義を理解する。
	地学	(4)	課題研究	自然環境についての調査については、野外の生物に関する調査・研究などを行う。(例) 指標生物による環境の調査
		(2)	大気・海洋と宇宙の	大気の大気熱収支と大気の運動や、オゾン層の破

理科	地学	(4)	構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 壊・地球温暖化など地球環境問題については、資料を用いながら地球環境の現状を把握する観点から学習する。</li> </ul>
			課題研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然環境についての調査については、自然環境に関する地学的調査などを行う。課題の例としては「酸性雨を調べる」、「大気汚染の調査」、「地球環境問題を地学的観点から調べる」などである。</li> </ul>
保健体育	保健	(3)	社会生活と健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすこともあること。このため、様々な対策がとられていることを学習する。</li> <li>・ 廃棄物の処理と健康についても触れるものとする。</li> </ul>
				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校や地域の環境を健康に適したものとするよう基準が設定され、環境衛生活動が行われていること。また、食品の安全性を確保するための基準が設定され、食品衛生活動が行われていることを学習する。</li> </ul>
芸術	音楽	A	表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 風、雨、川のせせらぎ、小鳥の声、虫の声、人工音など身のまわりの自然音や環境音を意識してとらえ、これらの音と人間の関わりを見つめ直す。</li> </ul>
			B	鑑賞
	美術	A	表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の人々や自然と共に生きる上での環境、生活や遊びの中の造形やあったら良いと思う夢などを考えたりして心豊かな主題を生成する。</li> <li>・ 心安らく美的な環境形成における造形の役割や責任など理解し、生活の中から課題を自ら発見し、社会へのメッセージとしての主題を生成すること。</li> <li>・ 生活環境を良りよく改善しようとする態度を育て、色彩や形体が身近な環境で果たす役割や重要性に関心をもち、環境と造形との関わりを理解し、構想に生かす。</li> <li>・ 身近な環境を造形的に美しく工夫し、自然と造形物との調和を考え、心安らく環境のデザインを創出する。</li> <li>・ 映像メディアが社会や環境に及ぼす影響、自</li> </ul>

芸術	工芸	B	鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> <li>己の表現と他者に対する心遣いと調和などを理解し、主題を心豊かに生成し、創意工夫して表現する意欲を高める。</li> <li>自然の中にある美的秩序や美しい空間を発見するとともに、自然との調和を考えた造形作品が生活空間に置かれ、生活を心豊かに演出していることについて理解する。</li> <li>美術の主体的な学習態度を育てるために、環境を視野に入れた彫刻、光の効果を使った総合デザインなど、自ら学習する課題を設定して、幅広く多様な学習を展開する。</li> <li>美術と社会とのかかわり、文化や伝統の形成について関心をもち、美術が社会や環境形成に果たす役割について理解する。</li> </ul>
		A	表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な環境を観察する中から自分の表現の主題を見だし、そこから新鮮で夢のある発想をするなど、自由に楽しく発想することで表現することの喜びや意欲を引き出し、心豊かなものづくりができるようになる。</li> <li>人間と自然との調和を求めながら、生活に役立つ様々なものづくりから出発し、生活環境をより心豊かに快適に過ごすために空間の構成など、幅広い観点から独創的な発想をする。</li> <li>より美的で独創的な表現を生活空間を基に探求することによって、手作りの工芸作品のよさや美しさ、人間と生活環境とのよりよい関係について理解を深める。</li> <li>身近な公園、建築、建造物など地域の環境づくりを通して人間と生活、自然と環境などについて考える。</li> </ul>
		B	鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品と作品が作られた時代や社会的背景及び生活環境などの学習を通して、作品や作者、工芸と社会や生活とのかかわりについて理解を深めたり、地域の優れた工芸家との交流を通して製作のための技術や作者の気持ちに直に接したりする。</li> <li>工芸を通して自然と人間の生活とのかかわりを考え、生活環境を明るく心豊かにしていく態度を培う。</li> </ul>
			全体を通して	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会生活や身近な環境についての基礎的理解の上に、問題意識をもって生活をより深く観察し、使う者の立場に立って生活を心豊かにするための課題を発見し、その中から個性的で創造的な発想を創出できるようにする。例えば、環境を配慮した資源の再利用や自然エネ</li> </ul>

芸術				<ul style="list-style-type: none"> <li>ルギーの利用を提案したり、誰もが住みやすい生活空間や使いやすい生活用品をバリアフリーの発想から考案するなど、問題意識をもって主体的に取り組めるよう題材の工夫をする。</li> </ul>
家庭(普通)	家庭基礎	(3)	消費生活と環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境問題や資源・エネルギー問題が生じていることを理解し、各自の消費行動とこれらの問題との関連について事例を通して具体的に考える。</li> <li>環境問題にかかわる物資・サービスの選択、購入、活用や生活の仕方などを点検し、環境負荷の少ない生活の工夫について考える。</li> <li>環境保全は個人や家庭の取組みだけでなく、地域や企業、行政、国際的な取組みなど社会全体が一体となった取組みや社会経済システム全体の見直しが必要であり、現在、様々な取組みが進められていることを理解し、実践への意欲をもつようにする。</li> <li>国際標準化機構(ISO)で、製品規格の標準化、品質管理や環境管理などのシステムの標準化がすすめられていることを知る。</li> </ul>
	家庭総合	(4)	生活の科学と文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>資源・エネルギーに配慮した食品の購入や調理などを考える。</li> <li>健康と安全に配慮した被服の調達と活用、資源・エネルギー問題や環境保全に配慮した再利用や適正な廃棄の方法などについて具体的に学習する。</li> <li>資源の有効利用の観点から再利用、廃棄などを考えた被服計画の必要性について学習する。</li> <li>健康に配慮した衛生的な住居について、冷暖房、住居内で使用される化学物質による空気汚染などの室内環境を取り上げて学習する。</li> <li>自然環境や社会環境と住生活の関連について考える。</li> <li>環境問題や資源・エネルギー問題が生じていることを理解し、各自の消費行動とこれらの問題との関連について具体的な事例を通して考える。</li> </ul>
		(5)	消費生活と資源・環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>各自の消費行動は国内の問題にとどまらず、外国の資源や環境へも影響を与えていることを知る。</li> <li>環境負荷の少ない生活を目指して環境に調和したライフスタイルの確立を図る。</li> <li>環境問題や資源・エネルギー問題は、消費段階だけでなく、資源調達、生産、流通・廃棄な</li> </ul>

家庭（普通）	生活技術	(2) 消費生活と環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの段階での環境への負荷について考えることが重要であることを認識する。</li> <li>・環境保全は個人や家庭の取組みだけでなく、地域や企業、行政、国際的な取組みなど社会全体が一体となった取組みや社会経済システム全体の見直しが必要であり、現在、様々な取組みが進められていることを理解し、実践への意欲をもつようにする。</li> <li>・国際標準化機構(ISO)で、製品規格の標準化、品質管理や環境管理などのシステムの標準化がすすめられていることを知る。</li> <li>・に負の財産を残さないよう環境の保全に積極的に取り組むことが、消費者としての責任であることを認識する。</li> </ul>		
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境問題や資源・エネルギー問題が生じていることを理解し、各自の消費行動とこれらの問題との関連について事例を通して具体的に考える。</li> <li>・環境問題にかかわる物資・サービスの選択、購入、活用や生活の仕方などを点検し、環境負荷の少ない生活の工夫について考える。</li> </ul>		
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境保全は個人や家庭の取組みだけでなく、地域や企業、行政、国際的な取組みなど社会全体が一体となった取組みや社会経済システム全体の見直しが必要であり、現在、様々な取組みが進められていることを理解し、実践への意欲をもつようにする。</li> <li>・国際標準化機構(ISO)で、製品規格の標準化、品質管理や環境管理などのシステムの標準化がすすめられていることを知る。</li> </ul>		
			(3) 家庭生活と技術革新	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学技術の進展の中で、科学技術についての正確な知識や情報を得るとともに、個人の利便性の追求だけでなく、環境への配慮などの総合的な視点をもって判断することが重要であることを理解させ、家庭生への適切な活用について考える。</li> <li>・環境保全や資源の有効利用の立場から、家庭用機器の適切な選択や活用についても考える。</li> </ul>	
				(4) 食生活の設計と調理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資源やエネルギーに配慮した食品の購入や調理方法などについても学習する。</li> <li>・被服の調達、活用、再利用や廃棄などを計画的に行うことが必要であることを理解し、環境に配慮し、各自のライフスタイルに応じた被服計画が立てられるようにする。</li> </ul>

家庭（普通）		(5) 衣生活の設計と製作	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境に配慮した洗濯について考え、実践できるようにする。</li> <li>健康と安全に配慮した被服の調達と活用、資源・エネルギー問題や環境保全に配慮した再利用や適正な廃棄の方法などについて具体的に学習する。</li> </ul>
		(6) 住生活の設計とインテリアデザイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然環境や社会環境と住生活の関連について考える。</li> <li>健康に配慮した衛生的な住居について、冷暖房、住居内で使用される化学物質による空気汚染などの室内環境を取り上げて学習する。</li> </ul>
国語	国語表現		<ul style="list-style-type: none"> <li>教材は、特に、論理的思考力を伸ばす学習活動に役立つもの、情報を活用して表現する学習活動に役立つもの、歴史的、国際的な視野から現代の国語を考える学習活動に役立つものを取り上げるようにする。</li> </ul>
	国語総合		<ul style="list-style-type: none"> <li>情報を活用して、公正かつ適切に判断する能力や創造的精神を養うのに役立つ。</li> <li>科学的、論理的な見方や考え方を養い、視野を広げるのに役立つ。</li> <li>人間、社会、自然などに広く目を向け、考えを深めるのに役立つ。</li> <li>我が国の文化と伝統に対する関心や理解を深め、それらを尊重する態度を育てるのに役立つ。</li> <li>広い視野から国際理解を深め、日本人としての自覚をもち、国際協調の精神を高めるのに役立つ。</li> </ul>
	現代文		<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な文章を読むことを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすることができるようになる。</li> </ul>
	古典		<ul style="list-style-type: none"> <li>人間、社会、自然などに対する様々な時代の人々のものの見方、感じ方、考え方について理解を深めるのに役立つ。</li> </ul>
上記以外の教科等			<ul style="list-style-type: none"> <li>他の教科等における環境教育に関連する内容や、実生活・社会における環境に関連する事象を題材や課題として学習する。</li> </ul>

職業に関する専門教科

教科等	科目	内容	環境関連項目(配慮事項や内容の取り扱い等)
農業	農業科学基礎	(1) 農業と環境保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>食料の生産と供給、環境の保全と創造、保健休養の場の提供などの農業の多面的な役割と人間生活との関係について基本的な内容を学習する。</li> </ul>
	環境科学	(1) 環境と人間生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域環境の観察や統計資料を用いた具体的</li> </ul>

農業	基礎		な学習を通して、環境と人間生活の相互関係及び生態系における物質循環について理解し、環境と環境学習に関心をもつ。	
		(2)	環境の調査	・観察や調査などを通して、地域の環境要因と環境調査の方法を体験的に理解する。
		(3)	環境の保全、創造	・観察や実習などを通して、森林による国土・環境の保全及び都市や農村の緑地による景観創造の機能を体験的に理解する。
		(4)	農業生物の育成	・農業生物の育成に関する実験・実習やプロジェクト学習を通して、作物などの特性と栽培環境の関係について理解し、科学的な見方と実践力を学ぶ。
	作物	(2)	作物の特性と栽培技術	・作物の生育の規則性、生理作用、環境要素が作物に与える影響及び作物栽培の技術の仕組みについて学習する。
		(3)	作物の栽培	・観察や実験・実習を通して、作物の特性と栽培環境の相互関係から作物の生育と環境の調節について理解する。
	野菜	(2)	野菜の特性と栽培技術	・野菜の生育過程、生理作用、環境要素や成長調節物質が野菜に与える影響及び野菜栽培の技術の仕組みについて学習する。
		(3)	野菜の栽培	・観察や実験・実習を通して、野菜の特性と栽培環境の相互関係から野菜の生育と環境の調節及び人工環境における栽培技術について学習する。
	果樹	(2)	果樹の特性と栽培技術	・果樹の生育過程、生理作用、環境要素や成長調節物質が果樹に与える影響及び果樹栽培の技術の仕組みについて学習する。
		(3)	果樹の栽培	・観察や実験・実習を通して、果樹の特性と栽培環境の相互関係から果樹の生育と環境の調節について理解し、果樹栽培に関する科学的な見方と実践について学習する。
	草花	(2)	草花の特性と栽培技術	・草花の生育過程、生理作用、環境要素や成長調節物質が草花に与える影響及び草花栽培の技術の仕組みについて学習する。
		(3)	草花の栽培	・観察や実験・実習を通して、草花の特性と栽培環境の相互関係から草花の生育と環境の調節について理解し、草花栽培に関する科学的な見方と実践について学習する。
	畜産	(2)	家畜の生理・生態と飼育環境	・家畜の生理・生態と行動的な特性、環境要因が家畜に与える影響及び飼育環境の調節を学習する。
		(3)	家畜と飼料	・観察や実習を通して、家畜の特性と飼育環境の相互関係から飼育環境の調節について理解し、家畜飼育に関する科学的な見方や実

農業

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実践力を培う。</li> <li>・ 同上</li> </ul>
食品製造	(4) 家畜の飼育		
	(7) 生産管理の改善		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 品質維持を図るための工程と生産環境の管理、衛生検査及び作業体系の基本的な内容を学習する。</li> </ul>
食品化学	(4) 食品の衛生検査		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 成分分析や衛生検査の意義と原理について理解し、食品製造に応用する実践力を培う。</li> </ul>
微生物基礎	(1) 微生物利用の意義と分野		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食品や医薬品製造における微生物利用の状況、自然界の物質環境における微生物の役割並びに発酵食品などの食品の製造と保存及び食品の品質の劣化と微生物の関係について基本的なことを学習する。</li> </ul>
植物バイオテクノロジー	(5) バイオマス・エネルギーの利用		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ バイオテクノロジーを活用して、セルロースなどの木材成分やもみがらなどの有機廃棄物を変換利用する技術を学習する。</li> </ul>
動物・微生物バイオテクノロジー	(3) 微生物のバイオテクノロジー		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アミノ酸の発酵生産に用いる微生物を中心にそれらの微生物の種類と利用、きのこの種菌の培養などの基本的なことを学習する。</li> </ul>
食品流通	(2) 食品流通の構造と機能		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食品流通と環境問題について学習する。</li> </ul>
	(4) 食品の品質と規格		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食品の栄養や安全性などの品質の保持と保証、そのための検査、包装及び環境条件の整備について学習する。食品の変質と環境条件について学習する。</li> </ul>
森林科学	(2) 森林の生態と分布		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遷移及び森林植生の分布と気候の関係について基本的な内容を学習する。</li> </ul>
	(3) 材木の生育と環境		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 我が国の有用林木の細胞組織などの性状、耐陰性などの生育特性及び環境要因が材木の生育に及ぼす影響について学習する。</li> </ul>
	(5) 森林の保育と山地の保全		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人工林の維持増進、材木と林地の保育作業、森林の災害からの保護及び治山と林道について基本的な内容を学習する。</li> </ul>
	(7) 森林の総合的利用		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生産機能や環境保全機能などの森林の多様な機能の総合的な利用と生物の多様性の保全などを図る持続可能な森林経営の概要を学習する。</li> </ul>
森林経営	(2) 森林の機能		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森林が有する、木材等の林産物の生産や供給、国土の保全や水資源の涵養、保健休養や教育的利用の場の提供などの機能に関する基本的な内容を学習する。</li> </ul>
農業土木設計	(6) 農業土木構造物の設計		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然環境と調和した農業土木構造物を設計することを学習する。</li> </ul>
農業土木施工	(2) 農業の基盤整備と自然環境		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各種の工事を自然環境に配慮し、合理的に施工することを学習する。</li> </ul>
造園計画	(1) 造園計画の意義と緑地環境の役割		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 造園の目的と計画及びそれに基づく造園空間の創造と利用の概要を学習する。</li> </ul>

農業		<p>(2) 環境と造園の様式</p> <p>(5) 公園、緑地の計画・設計</p> <p>(5) 植物及び工作物の管理</p> <p>(3) 農業・農村の機能の活用</p>	<p>・日本と外国の造園様式を、それぞれの国や地域の自然環境、文化的環境及び社会的環境と関連付けて学習する。</p> <p>・都市緑地、農村緑地、自然公園の種類、機能、役割、環境条件など公園や緑地の計画・設計に関する基本的な内容を学習する。</p> <p>・造園樹木のせん定と整姿、工作物の補修などの維持管理及び造園の目的に沿った景観の維持管理について学習する。</p> <p>・里山や溪流などの自然環境、田畑や農家などの農村景観、郷土芸能などの文化や地域の農産物加工などの農業・農村がもつ機能の活用について基本的なことを学習する。</p>
工業	<p>目標:工業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ現代社会における工業の意義や役割を理解させるとともに、環境に配慮しつつ、工業技術の諸問題を主体的、合理的に解決し、社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。</p>	<p>(1) 人と技術と環境</p> <p>全体を通して</p> <p>(4) 安全管理</p> <p>(5) 生産の管理</p> <p>(1) エネルギー変換と環境</p> <p>(4) 自動車</p> <p>(5) 蒸気原動機</p> <p>(1) 電子機械の概要と役割</p> <p>(5) 自動車と環境</p> <p>(3) 自動車の整備と試験</p> <p>(4) 省エネルギー技術</p> <p>(3) 各種工事</p> <p>(2) 建築と環境</p>	<p>・環境に配慮した工業技術について、身近な事例を通して、その意義や必要性について理解する。</p> <p>・廃材、排気、廃液などの処理について十分留意できるようにする。</p> <p>・環境の保全、特に生産活動における公害発生とその防止の概要を学習する。</p> <p>・災害の予防や安全対策について基礎的な内容を学習する。</p> <p>・エネルギー消費と環境問題の関連を簡単に学習する。</p> <p>・自動車の法定整備と安全確保及び環境対策に関する基礎的な内容を簡単に学習する。</p> <p>・原子炉による動力発生について、原理、構成、利用及び環境への配慮を簡単に学習する。</p> <p>・省エネルギーや環境保全等の分野における重要な技術であることを理解する。</p> <p>・自動車の安全確保及び環境保全に関する技術の基礎的な内容を学習する。</p> <p>・環境保全と安全確保に関する装置の整備について、技術の進展に留意して題材を取り上げ、基礎的な内容を学習する。</p> <p>・発電・送電及び電力利用の省エネルギー技術の原理と方法を学習する。</p> <p>・解体工事の概要と廃材の処理を学習する。</p> <p>・自然条件が建築物に与える影響や快適な住環境を計画する上で基礎的な要因であることについて理解する。</p>

工業	設備計画	(3)	建築の設備	・省エネルギーの必要性を簡単に学習する。	
		(1)	設備の基礎	・設備工業と自然環境及び室内環境とのかかわりを学習する。	
	衛生・防災設備	(1)	給水・給湯設備	・水質基準と水道施設の概要を学習する。	
		(2)	排水通気設備	・排水の種類と下水道施設の概要を学習する。	
		(3)	排水処理設備	・環境保全の観点から排水処理の必要性について理解し、し尿浄化設備の構成と排水の再利用を学習する。	
	社会基盤工学	(1)	社会基盤整備の概要	・電力やガスなどのエネルギー資源の活用の概要について理解する。	
		(3)	治水と利水	・水資源の開発及び上下水道の基礎的な内容を学習する。	
		(4)	社会基盤システム	・基本的な環境保全及び社会基盤施設と景観とのかかわりを学習する。	
	工業化学	全体を通して		・化学工業が、資源とエネルギーを有効に利用して様々な材料を製造していること及び環境保全に関して重要な技術であることについて理解する。	
		(6)	生活と化学工業製品	・有害物質と危険物の取扱い方法及び取扱者の管理責任の概要を学習する。	
	化学工学	全体を通して		・熱の有効利用や廃棄物の再利用及び省資源や省エネルギーの考え方について理解する。	
		(2)	物質とエネルギーの収支	・資源及びエネルギーの有効活用の事例を通して、具体的に理解する。	
	地球環境化学	全体を通して		・地球の環境保全のために、化学技術が重要な役割を果たしていることについて理解する。	
		(1)	地球環境と人間	・自然環境の保全と人間生活や生態系とのかかわりを簡単に学習する。	
		(2)	資源とエネルギー	・資源の有限性、資源及びエネルギーの有効利用の必要性、化石燃料の使用が地球環境に及ぼす影響などを学習する。	
		(3)	自然環境の調査	・大気汚染と水質汚濁の事例を取り上げ、汚染の種類と原因を考える。また、関係法規に基づいた測定法による基礎的な環境分析技術及び調査方法を学習する。	
		(4)	環境の保全と化学技術	・環境保全のための製造プロセスの改善に関する基礎的な内容や環境汚染物質の基礎的な処理技術、廃棄物の再資源化の基礎的な処理技術を学習する。	
		(5)	環境保全に関する法規	・法規の概要を学習する。	
		工業材料	(6)	環境と材料	・環境に対して安全な工業材料の製造及び活用法を学習する。また、工業材料のリサイクルの基礎的な技術を学習する。
			材料加工	(4)	工業材料の製造管理

工業	セラミック技術	(6)	セラミック技術と安全	セラミックスの製造における環境保全及び資源の再利用技術の基礎的な内容を学習する。
	インテリア計画	(2)	インテリアの環境条件	気温・日照等の屋外の環境や照明・音響等の屋内の環境とインテリアの関係の基礎的な内容を学習する。また、インテリアの色彩と形態及びそれが人間の感覚に与える影響の基本的な内容について学習する。
	デザイン技術	(4)	環境構成デザイン	室内、家具及び店舗のデザインについて、基礎的な内容を学習する。
商業	ビジネス基礎	(2)	経済生活とビジネス	ビジネスの発展について、地球環境問題、エネルギー問題への対応など新たなビジネスの問題にも触れ、ビジネスの創造の重要性について理解する。
	国際ビジネス	(2)	我が国の企業経営	企業を取り巻く環境の変化を踏まえて、経済社会の一構成要素としての企業の責任について理解する。その際、環境問題などに対する企業の社会的責任についても理解する。
	商品と流通	(2)	商品	自然や生活に環境性などを取り上げて商品の特性、商品のライフサイクルや商品の分類についても理解する。
水産	目標：水産や海洋の各分野における生産や流通、環境などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、水産業及び海洋関連産業の意義や役割を理解する。			
	水産基礎	(1)	海のあらまし	海と人間のかかわり、水産資源及び海洋環境の保全と管理等について基礎的なことを学習し、海や地域の陸水の環境調査等、体験的な学習を行う。
	漁業	(1)	漁業と水産生物	海の生態系、食物連鎖及び海の生産力について学び、汚染防止等海の環境保全に必要な基本的な内容を学習する。
	船用機関	(5)	補機	ビルジ排出装置、油水分離装置、汚水処理装置、廃油焼却装置等の船舶に必要な環境汚染防止装置の概要について学習する。
	栽培漁業	(3)	栽培技術	水産生物の繁殖保護の方法や種苗の移植、放流、産卵場等の環境改善、漁業管理等の基礎的な知識と技術を学習する。
	水産生物	(1)	水産動物	水産動物の生活と環境とのかかわり及び生態系、資源等の中で水産動物の果たす役割について学習する。
	海洋環境	(1)	海洋環境管理の概要	水産資源の維持や増大に果たしている海洋や陸水の環境管理の意義と沿革及び現状と今後の展望について学習する。
			海洋・陸水環境の保全	オゾン層の破壊、エルニーニョ現象など地球環境の変化と海洋環境のかかわり及び排水、油汚染等の環境要因の基礎的な学習をす

水産	水産食品製造	(3)	栽培漁業を取り巻く環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>河川、湖沼等の陸水の環境要因の基礎について学習する。</li> <li>海洋環境に関する法規や国際条約の概要及び環境アセスメントの意義や役割について学ぶ。</li> <li>栽培漁業における基礎的な環境要因及び水産生物の生育に適する水質や自然条件などの環境づくりについて学習する。</li> <li>遊漁などの海洋性レクリエーションと環境とのかわりについて学習する。</li> </ul>		
		(4)	漁場環境と調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>内水面、浅海及び増養殖場の環境特性について学習する。</li> <li>水質、底質、生物調査等の基本的な調査方法について学習する。</li> </ul>		
		(5)	海洋工事と環境保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>沿岸域の基礎的な環境の調査及び保全技術並びに沿岸環境の保全と整備について学習する。</li> </ul>		
		(5)	廃水及び廃棄物の処理	<ul style="list-style-type: none"> <li>水産生物の繁殖や成長などに必要な環境を造成するための基礎的な技術などについて基本的な機械等を含めて学習する。</li> <li>食品製造に起因する公害の発生要因とその対策及び水質汚濁と廃水の処理方法の基礎的な内容を学習する。</li> <li>水産食品製造によって生じる廃水や廃棄物を処理する方法と悪臭・騒音対策、水産食品製造に使用する危険物などについて基礎的な内容を学習する。</li> </ul>		
			ダイビング	全体をとおして	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全指導や安全管理、水中や沿岸などの環境保全等に十分留意しながら学習する。</li> </ul>	
		家庭(専門)	消費生活	(3)	消費者の権利と責任	<ul style="list-style-type: none"> <li>消費行動と環境との関わりについて理解させ、環境保全に配慮した生活の在り方について考えることができるようにする。</li> </ul>
			リビングデザイン 公衆衛生	(1) (2)	生活と住居 環境衛生	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康で安全な室内環境の条件、住居と自然環境や社会環境との関わりなどを学習する。</li> <li>現代の生活と自然環境とのかわりについて具体的な事例を通して理解させ、生活環境の保全のための方策について考えさせること。</li> </ul>
看護	看護基礎医学	(7)	生活と健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>物理的、化学的、生物的、社会的な環境要因と健康との相互作用並びに衣食住と健康との相関について理解し、健康を保持増進するためには環境の保全や調整が必要であることを理解する。</li> </ul>		

特別活動

特別活動	ホームルーム活動 2 活動内容	(2) ア 個人及び社会の一員としての在り方生き方に関すること (カ) ボランティア活動の意義の理解	高等学校段階では、中学校での経験やより広い社会的認識に立って、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、社会的自立に結び付けていくことが大切である。具体的には、社会福祉活動、環境保全・保護活動、など。
特別活動	生徒会活動 2 活動内容	(1) 学校生活の充実や改善向上を図る活動 - イ 環境の保全や美化のための活動	例えば、校内の美化活動や緑化運動を盛り上げたり、資源やゴミ問題等への課題意識を深めたりするなど、生徒会活動として積極的に取り組むことが期待される。

総合的な学習の時間

総合的な学習の時間	取扱い	各学校は、地域や学校、生徒の実態等に応じて、横断的・総合的な学習や生徒の興味・関心等に基づく学習など創意工夫を生かした教育活動を行うものとする。	
	ねらい	(1) 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。 (2) 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにすること。	
	学習活動	ア 例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動 イ 生徒が興味・関心、進路等に応じて設定した課題について、知識や技能の深化、総合化を図る学習活動 ウ 自己の在り方生き方や進路について考察する学習活動	
	配慮事項	(1) 自然体験やボランティア活動、就業体験などの社会体験、観察・実験・実習、調査・研究、発表や討論、ものづくりや生産活動など体験的な学習、問題解決的な学習を積極的に取り入れること。 (2) グループ学習や個人研究などの多様な学習形態、地域の人々の協力も得つつ全教師が一体となって指導に当たるなどの指導体制、地域の教材や学習環境の積極的な活用などについて工夫すること。	

総合的な学習の時間における環境教育に関する内容例

	環境全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地球的及び地域的視野から環境、資源・エネルギー、人口、食料、都市問題、交通問題などは相互に関連し合っていることを認識し、その解決には、資源やエネルギーの有限性及びその有効利用法や地域性を踏まえた取り組みや国際協力の必要性を考える。</li> <li>・ 地球環境問題をテーマにそのメカニズムなどから人間と環境とのかかわりを認識し、地球環境保全のための国際的な取り組み、日本役割などを考える。</li> <li>・ 企業、行政、NGO、個人がそれぞれの役割</li> </ul>
--	------	---

総合的な 学習の時間	生活環境	<p>に応じて環境保全にかかわる必要性を認識し、循環型社会の形成のために各主体がパートナーシップのもと環境の保全、創造に取り組んで行く必要があることを考える。</p> <p>・身近な地域社会や日常生活が、地球環境などに与える影響を認識し、環境負荷の少ない社会や生活を目指して生活意識や生活様式等を見直すことができるようになる。</p> <p>・公害防止と環境保全の重要性に対する認識を深め、個人や企業の社会的責任、生き方、在り方について考える。</p>
	自然環境	<p>・自然環境は、多様な生物が、食物網や物質循環・エネルギーの流れなどの生態系のバランスの上に成り立っており、その自然環境が人間の生活や産業活動によって失われていることを認識し、自然環境や生物種を保全する意義や保全策について考える。</p>